

目指せ！サッカー日本代表

2018 なでしこ&キッズサッカー大会 in 阿蘇

NPO法人熊本県キッズサッカー協議会（山下学会長）が主催する『なでしこ&キッズサッカー大会in阿蘇』が4月22日に農村公園あびかで開かれ、5歳から成年女子まで県内外から36チーム、360人が参加し熱戦が繰り広げられました。

市内からは、「ASOかざみどりFC」（6歳以下男女）とそのお母さんらでつくる「ASOかざみどりマーマーズ」（成年女子）が出場。季節外れの暑さの中、両チームともに惜しくも入賞は逃したものの、終始笑い声に包まれ親子でサッカーを楽しみました。

わだい



元気にボールを追いかける子どもたち

News



佐藤市長と握手を交わす末續選手



WebTV アソ
動画

「走り」をテーマに連携構想

北京五輪銅メダリスト末續慎吾選手が来庁

北京オリンピック4×100リレー銅メダリストの末續慎吾選手が、5月24日に市役所に来庁。「走り」で連携する構想について佐藤市長と対談しました。

末續選手は、北京オリンピック後の3年間の休養中に阿蘇市を頻繁に訪れており、阿蘇の土地との関係性や思い入れについて話がありました。

また、勝ち負けだけにとらわれず自由な「走り」を共有する自身のプロジェクトの中で、「阿蘇市の商店街や田園風景の中で地域住民が主役となった運動会をやりたい」と市と連携した構想について語りました。

清々しいキャンプライフを

坊中野営場開きで安全祈願

市営坊中野営場開きが4月25日に行われ、関係者ら約40名が参加。ことし一年の安全を祈願しました。

同野営場は、昭和48年に最大2千人を収容できるキャンプ場として設置。阿蘇の大自然を満喫しようと毎年多くのキャンパーが訪れ、昨年は約3600人の集客がありました。

松本勇二場長は「5月3日・4日の2日間だけで500名の予約が入っており、これまでになく好調。地震からの復興のはずみにしたい」と今シーズンの入客に期待を込めてあいさつしました。

News



安全祈願の様子

News



訪れた車やオートバイを歓迎する観光関係者

阿蘇山上へのアクセス復旧

阿蘇パノラマラインが全線開通

熊本地震で被災し、全面通行止めとなっていた県道阿蘇公園下野線（杵島岳交差点～湯の谷ゴルフ場）が4月26日に開通し、観光関係者らが訪れた車両を歓迎しました。

開通時刻の午前10時になると、道路管理者が立入規制のゲートを開放し、列を作って待っていた車やオートバイが一斉に通過。観光関係者は横断幕や手旗で出迎え開通を祝いました。

同県道が復旧したことで阿蘇パノラマラインが全線開通となり、阿蘇山上へのアクセスが大幅に改善しました。

税の徴収率アップへ

熊本県税務職員併任徴収辞令交付

熊本県と阿蘇市は、市へ県税務職員を派遣し、共同で県・市税を徴収する協定を締結しています。これに伴う併任徴収員の辞令交付式が5月8日に市役所で行われ、佐藤市長から熊本県県北広域本部収税課の税務職員7名へ辞令が手渡されました。

この派遣は今年度で9年目を迎え、市税滞納処分による差し押さえ動産及び不動産の公売会の開催や臨戸訪問などを共同で実施し、県・市税の収納率向上に努めています。

佐藤市長は、「自主財源が減る中、税の重要性をますます感じている。県の経験を活かしてもらいたい」と期待を述べました。

News



併任徴収の辞令交付を受けた県職員

わだい



図書カードを手渡した富田委員長（左）と藤田社長（中央左）

子どもたちに図書を

オムロン阿蘇が小・中学校へ図書カードを寄贈

オムロン阿蘇株式会社（藤田英都代表取締役社長）と同社労働組合（富田陽一執行委員長）が5月10日に市役所を訪れ、市内の小・中学校に図書カードを寄贈しました。

同社では、会社の創立記念である5月10日に、環境やボランティアに対する意識向上を目的とした社会貢献活動を実施しており、地域を担う子どもたちの教育のために10年前から毎年図書カードを寄贈しています。

同社は、節電やリサイクル、会社周辺の清掃や献血など日頃から環境とボランティアを意識した活動に取り組んでいます。

伝統の茶摘みを体験

内牧小学校で親子茶摘み

内牧小学校の全校児童と保護者が参加する親子茶摘みが5月11日に西湯浦の茶畑で開かれ、児童や保護者ら450名が参加しました。

同小学校の茶摘みは、農業体験と親子のふれあいを目的として約70年前から続いている伝統行事です。平成24年の水害で茶畑が被害を受けて中断した年もありましたが、昨年4年ぶりに再開されました。

ことは1年生の歓迎遠足も兼ねて実施。保護者が管理する約1畝の茶畑で、児童らは黄緑色の柔らかい茶葉を手摘みしながら親や友達との交流を深めました。

わだい



親子で協力してお茶を摘む様子

わだい



心を一つに感動の輪を

第7回 阿蘇中央高校 体育祭「五岳祭」

阿蘇中央高等学校（富下春海校長）の体育祭「五岳祭」が5月12日に同校阿蘇清峰校舎のグラウンドで開かれ、保護者や地域住民の声援を受けながら生徒はそれぞれの競技に取り組みました。

ことは「結輪」〜心を一つに感動の輪を〜をスローガンに各学科の1〜3年生で構成された6団を結成。それぞれの団が一致団結し体育祭を盛り上げました。3月から練習を始めた全校生徒447人によるマスゲームでは、女子生徒が華麗なダンスを披露。また、男子生徒が7段ピラミッドに成功すると大きな歓声に包まれました。

九州70市の選管が集結

阿蘇市で九州都市選挙管理委員会連合会総会開催

九州都市選挙管理委員会連合会の定期総会が5月16日・17日の2日間、わたり阿蘇市で開催され、九州内の70市206人の選挙管理委員会委員や事務局職員が参加しました。

総会では、議案について慎重な審議が行われ、選挙事務を適正に執行するために、各市選挙管理委員会が抱える課題等について活発に意見が交わされました。

当連合会は九州管内115市の選挙管理委員会が構成されており、県内で総会が開催されるのは11年ぶりとなります。

News



歓迎のあいさつをする阿蘇市の佐藤照司選管委員長

わだい



フラワーアレンジメントを体験する高校生たち

匂って触って学ぶ^{はないく}花育

阿蘇中央高校で花育活動

花や緑に触れて学びや交流を行う「花育」の体験活動が阿蘇中央高校清峰校舎と村上バラ園で行われ、県内5校の高校生29名が参加し、フラワーアレンジメント体験とバラ園を見学しました。

阿蘇市4Hクラブ（村上裕基会長）のメンバー6名が講師となって行われたこの取り組みは、花の生産過程や生えている姿を見たことがない人に、実際に花に触れるチャンスを作りたいと企画。同クラブの村上会長は「バラにはトゲがあり、香りもある。実際に触れることで花を楽しみ、周りとの交流ツールにしてみたい」と花育の大切さを語りました。

“ヨソモノ”の意見を集落に反映

手野集落の未来を共に創るプロジェクト

わだい

手野集落の活性化を目的とした「手野集落の未来を共に創るプロジェクト」が始動。5月19日に手野地区へ大学生を招き、住民との交流や田植え体験が行われました。

高齢化・過疎化が進む手野地区では、集落の農業や伝統を継承するため、昨年度から手野地区山村活性化協議会（山部賢次会長）を組織し、都市農村交流のビジネスモデル構築を目指しています。初めての取り組みとなる今回は、大学生ら8名をモニターとして招致。農業農村体験について「ヨソモノ」の意見を聞き取りました。本取り組みは今年度全6回計画されています。



地元の人に指導を受けて田植えを体験する大学生たち

全国・国際大会出場者紹介

●スポーツクライミング (5.19～20 / 鳥取県)

第4回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会 2018

甲斐 彪悟 (一の宮中2年)

●ボクシング ウェルター級 (6.30～7.3 / 大韓民国)

第34回日韓親善スポーツ交流大会

北窓 正学 (九州学院高校3年 / 阿蘇中出身)

(敬称略)

住友財団の助成により

市指定文化財「真光寺の本尊」を修復

市指定有形文化財「真光寺の本尊」は平成28年熊本地震の本震で転倒、左肩が外れるなどの被害を受けました。管理者である一の宮町中通の真光寺保存組合が事業主体となり、公益財団法人住友財団の文化財維持・修復事業助成と阿蘇市文化財保存事業補助を受けて修復され、被災前の姿を取り戻すことができました。

